

本校の学習状況と課題

～全国学力・学習状況調査の結果から～

令和6年4月18日(木)、全国一斉に中学3年生を対象とした『全国学力学習状況調査』が実施されました。このほど、本校における学習状況の分析結果がまとまりましたので、保護者及び地域の皆様にご報告いたします。

【調査内容及び目的】

「教科に関する調査(国語・数学)」と「学習環境や生活に関する質問紙調査」の2種類からなっており、「教科に関する調査」は、「(ア)身につけておくべき知識・技能等」と「(イ)知識・技能等を活用・実践・評価等する力」に関する問題が一体的に出題されました。

この調査結果を基に、本校生徒の学力や学習状況を分析・把握し、各教科における成果や課題、生活状況の実態等を明らかにすることで今後の指導の改善に役立てることを目的としています。

学習状況に関する分析結果の概要

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

結果を見ると、本校の国語の平均正答率は、県・全国を下回っています。数学は、県と同等、全国をやや下回っています。大切なことは、結果に一喜一憂することではなく、どの領域がよく、どの領域が落ち込んでいるかを分析し、今後の指導に生かすことです。3年生は進路決定までに、まだ時間が残されていますので、特に正答率の低かった傾向の問題を今後の授業で再度行い、つまずきを解消していきます。

2 各教科の分析結果

〔国語〕

国語の調査結果について、全体的には、全国平均を下回る結果となりました。学習指導要領の内容別の値においては6項目中2項目で全国平均を上回りました。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高く、日頃の漢字練習や定期的に漢字テストを行ってきた成果と考えることができます。しかし、表現を工夫して書き、工夫した表現の効果を説明するという部分で正答率が低くなっているため、授業や課題等を通して強化していく必要があります。また、記述式の問題形式の正答率の低さも課題としてあげられます。

◎授業改善について

今後は、生徒が授業で学んだ内容をしっかりと理解し、使いこなすことが出来るよう、『授業の流れ』を特に意識して授業改善を行っていきたいと考えています。まず、多くの作品を読み、作品を比較したり、表現を吟味したりし、作品の表現技法や筆者の主張を的確に捉える活動を多く取り入れます。そして、その中で学んだことを評論文やプレゼンテーションなどに反映させることで、自分の考えを的確に豊かに表現できるようにしていきたいと思えます。また、ペアやグループでの作業を取り入れ、意見交換をすることで自分では気づかない表現の改善点や新しいアイデアを得ることに繋げ、学習を深めていきます。

〔数学〕

学習指導要領の領域でいうと、「数と式」「図形」「関数」の正答率は、県、全国とほぼ同じであるのに対して、「データの活用」の正答率は、県、全国よりも下回っています。問題形式でいうと、「選択式」「短答式」の正答率は、県、全国とほぼ同じであるのに対して、「記述式」の正答率は、県、全国よりも下回っています。特に「データの活用」領域では、この結果が顕著に表れており、「与えられたデータから最頻値を求める」問題の正答率が、大きく上回っている一方、「複数の集団のデータの分布

	国語	数学
山梨県	58	51
全国	58.1	52.5

の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題の正答率が大きく下回る結果となりました。

◎授業改善について

今後は授業の中で数学的な知識や技能を身につけるとともに、数量の特徴や関係を分析する場面を増やしたり、「なぜそうなるのか」ということを式や言葉で説明する場面を増やしたりしていきます。また、日常生活や社会の事象と関連づけた問題にも多く取り組み、学びを深められるようにしていきます。

「学習環境や生活に関する質問紙調査」の分析結果の概要

■質問紙調査から見える本校の子どもたちの姿

□よい傾向が認められる項目

- ・携帯電話等の使い方について家の人と約束したことを守っている。
- ・自分にはよいところがあると思う
- ・将来の夢や目標を持っている
- ・学校に行くのは楽しい
- ・分からないことなどがあったときに自分で学び方を考えたり工夫したりできる
- ・地域や社会をよくするために何かしたい

□課題が認められる項目

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている・起きている
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う
- ・新聞を読む

□これからの学校としての取り組みについて

今回の調査結果から、本校の多くの生徒が自分自身を肯定的にとらえ、安定して前向きに学校生活を送っていることが分かります。授業の中で、PC・タブレットを使用する機会は県・全国を大きく上回っており、PC・タブレットを使って、自分のペースで理解しながら学習を進めたり、分からないことがあったときにすぐ調べたりするなど、有効に活用している生徒が多くいることもわかります。また、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだり、分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげたりしているなど、学習について肯定的に捉えている生徒も多くいます。理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実習の計画を立てたり、英語の授業で、英語を聞いて概要や要点をとらえる活動や、即興で自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動が行われたりしていたと答える生徒は多くありませんでした。校内研では「生き生きと学習に取り組み、確かな学力を身に付けた生徒の育成～ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」～を主題に取り組んでおり、今後も生徒個々に応じて、確かな学力がつけられるような授業を工夫していきます。また、今回国語の結果が芳しくなかったことを踏まえ、それぞれの授業の中で「なぜそう考えるのか」といった問いを大切に、論理的思考力が高まるような取り組みも考えていきます。今後、ご家庭にも基本的な生活習慣の確立にご協力いただき、学んだことと社会のつながりも考えられるような活動にも取り組んでいきます。

学校としての今後の取組

これまでの分析を踏まえ、今後の取組について以下のように改善を図ります。

- ①基礎的・基本的な学習内容について、小テストやワーク、ICT機器などを活用して反復学習を行い、定着を図る。
- ②活字の資料やITC機器の利用等（個別最適な学習）、及び他者の意見・考えに触れる機会（協働的な学習）を増やし、「深い学び」につながるような授業づくりをする。
- ③自主学習ノートや5教科テキストを活用し、自主的・計画的な家庭学習を習慣づける。
- ④現在行っている「めあて」（授業の見通しを持つ）、「まとめ」（授業の振り返りをする）を定着させ、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何を学んだのか」が明確な授業を工夫する。
- ⑤地域の人とのつながりを大切にし、地域の良さを認識しながら日々の生活を送れるように、地域と学校の連携を図る。